

# ごあいさつ

本年3月に発生した東日本大震災において、被災された皆様に対しまして、心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧がなされますことを心からお祈り申し上げます。

当社におきましても、改めて今回の震災に鑑み、地震動だけでなく津波についても現状の対策を検証する必要があると考えており、今後行われる行政によるハザードマップの見直しに合わせて、各種規程の検証と見直し、現場における部門間の連携を円滑に行うための訓練等を必要に応じて実施してまいります。

さて、当社が安全管理規程を定め、運輸安全マネジメントを導入して6年目を迎えました。その間、ハード・ソフト含めて様々な施策を進め、鉄道輸送の安全性向上に努めてまいりました。

ハード面では、ATS改良やホーム非常通報装置とATSとの連動化、新造車両の導入、軌道改良等、2010年も計画どおり実施しました。引き続き、今年度におきましても、淡路駅付近や洛西口駅付近の連続立体交差工事の継続、宝塚線におけるATS改良ならびに技術基準改正に伴うATS装置による速度超過防止機能強化、9000系車両3編成の新造等を進めてまいります。また、ホームでの事故防止は、最重要課題の一つであり、ホーム非常通報装置の整備促進、転落報知装置、ならびに転落防止装置の整備、列車接近放送の改良、警告表示の設置等を進め、ホームにおける事故の撲滅に努めてまいります。

ソフト面では、2010年度はヒヤリ・ハットやヒューマンエラー等の分析による再発防止、APEC開催に先立ち警察・消防と合同で実施したテロ対応訓練、災害時等における要注意箇所の見直しと降雨量による運転規制策定等を実施しました。その一方で、社員間のコミュニケーションを充実させ、風通しのよい職場風土の醸成をさらに進める施策として、私自身や都市交通事業本部長が巡視で現場に赴いたときに、フリーディスカッションミーティングやランチミーティングを行うことで、様々な意見交換を直接行い、問題点の抽出や共有化に努めています。また、昨年度より開始した運転・土木施設・電気施設・車両の各部門間の情報共有の場であるマネジメントエリアミーティングにより、部門間の連携強化を図っています。さらに、本部内グループ会社を含めた経験浅薄者に対する教育の充実を図るとともに、薬物乱用防止、飲酒事故防止等、コンプライアンスに関する教育の充実も図り、技術の伝承と次代の職場の核となる人材の育成にも引き続き取り組んでまいりました。これらについても、今年度も継続して実施し、より効果を高めてまいります。

本年3月、第4回目の国土交通省による「運輸安全マネジメント評価」を受け、当社の安全に対する取り組みについては、一定の評価をいただくことができました。当社では、今回の結果に慢心することなく、さらなる安全管理体制の強化充実に向けて真摯に取り組む所存でございます。

この安全報告書は鉄道事業法第19条の4項に則り、2007年度以降、毎年作成し、ホームページや冊子等で皆様に公表してまいりました。

これからも、公共交通機関の使命を果たすべく、PDCAサイクルを機能させて、お客様第一・安全最優先の強く堅い意志によって、安全を追及し、より一層皆様に愛される会社を築き上げるよう邁進してまいります。

阪急電鉄株式会社 取締役社長

角 和夫

